

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

P2 特集

生活困窮者自立支援制度施行から3年
制度改正と支援の現状

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 私の物語

日本の質の高い介護にあこがれて
ステファニ ディアナ シウィナンティさん(宝塚市)

P8 みんなでつくるひょうごの福祉

民生委員制度創設100周年・
児童委員制度創設70周年記念
兵庫県民生委員児童委員大会
を開催

P9 福祉トピックス
地域福祉ホットニュース

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション

2018
3
No.805

3月は
「自殺対策強化月間」だよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。



猪名川町
静思館



生活困窮者自立支援制度 施行から3年 制度改正と支援の現状

生活困窮者自立支援法が平成27年4月に施行されてから、間もなく3年が経過する。国では法施行後の実態等を踏まえて制度見直しの論議が進められ、このたび報告書にまとめられた。

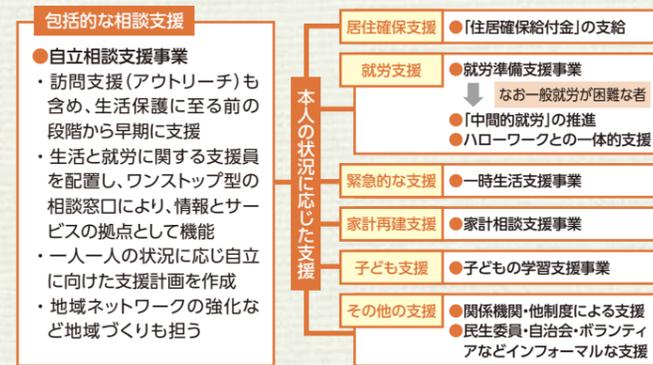
今回の特集では、この報告書の内容と併せて、生活困窮者自立支援制度の現状について報告する。



生活困窮者自立支援 制度の現状

生活困窮者自立支援制度は、社会や経済状況の変化の中で、経済的に困窮する人や社会的に孤立した状態に陥ることにより適切な支援等にたどりつくことができない人の増加を受け、これら生活困窮者の社会参加と就労を通じて生活向上を図ることを支援する仕組みとして創設された(図1)。

■図1 生活困窮者自立支援制度



法施行後3年時点での制度見直しを見据え設置された「社会保障審議会 生活困窮者自立支援及び生活保護部会」が昨年12月にまとめた報告書では、法施行後の2年間で、新規相談者が約45万人、継続的な支援を行った人は約12万人、就労・増収した人が約6万人となったことに加え、支援期間1年間で意欲や社会参加等、家計の状況、就労の状況のいずれかでステップアップした人が7割に上るなど、着実な効果が現れていることが報告されている。

また、報告書では新規相談者全体の約6割が男性であり、特に40〜50代の就労していない男性が全体の約2割とされたが、この状況は、本制度の発足以前からさまざまな支援の場等において見られていた傾向と一致している。

加えて65歳以上の人が全体の約2割、子どもがいる50代以下の相談者が全体の3割を占めているなど、これまで支援につながってこなかった生活困窮者の実像も明らかとなってきた。

制度見直しに向けた 基本的な考え方

生活困窮者自立支援制度の見直しに向けて、報告書では基本的な考え方として次の5つのポイントを示している。

① 地域共生社会の実現

地域社会において「支え手」「受け手」といった関係を超えて、生活困窮者等の誰もが役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる「地域共生社会の実現」という視点を立って制度を設計する必要があること。

② 早期の予防的な支援

経済的困窮という目の前の事象だけに着目して応急的な支援を行うだけではなく社会的孤立や自尊心の低下、健康意識の希薄さなどの問題の背景事情を踏まえた「早期の予防的な支援」を心掛ける必要があること。

③ 貧困の連鎖を防ぐ

子どもや若者が、生活に困窮した

世帯で育つことにより、経済的、心理的に傷ついたりすることなく、また成長の過程で社会から孤立せず、公平な条件で人生を歩むことができるよう「貧困の連鎖を防ぐ」という視点を立って支援を行う必要があること。

④ 高齢の生活困窮者に着目した支援

高齢の生活保護受給者が増加している状況を踏まえ、高齢期に至る前の段階からの支援を強化するとともに、高齢者に対する就労支援等を強化するなど「高齢の生活困窮者に着目した支援」という視点が重要であること。

⑤ 切れ目のない、一体的な支援

生活保護を受給しながら生活を整え、生活保護から脱却する場合のしばらくの間に生活困窮者自立支援制度による支援を行うなど、「切れ目のない、一体的な支援」を目指す必要があること。

今後はこれらの視点を踏まえながら、法改正を含めた制度の見直しが行われることとなる。

子ども、高齢者に対する 支援の実例

報告書で示された基本的な考え方のうち、特に支援が必要となる「子ども」と「高齢者」への支援について、県内の取り組みを紹介する。

事例①

子どもの学習支援(尼崎市)

尼崎市では子どもの学習支援を行う生活困窮者学習支援事業を推進。「学習支援教室(以下、「教室」)」という名称で、市内3カ所でそれぞれおおむね週2回実施している。教室には生活保護のケースワーカーや生活困窮者自立相談支援事業の相談支援員らが声を掛けた小学4年生から中学3年生の子どもたち約60名が登録し、高校受験を控えた中学3年生が約半数を占める。

各教室では、事業受託団体の学習支援員や大学生・高校生ボランティアらによって、子どもたちの学校の宿題や予習・復習を中心に学習面でのサポートを行っている。これに加え、学習の動機づけとなるように、



教室名はその年に通う子どもたちが話し合い、自分たちで決める

仕事に就いた人から話を聴く「職業人講話」や、社会体験学習などを行い、子ども自身が自発的に学び、他者との関係性を育むことを目指している。

また、子どもやその保護者と接する中で、学習支援にとどまらない生活上のさまざまな相談にも応じている。教室の中でのさりげない子どもの呟きをきっかけに、学校の先生らと連携することや、教室に通う子どもの保護者の悩み相談に応じることもあるという。



この教室を卒業した子どもたちの中には、その後も教室に通い続けるOBもいる。例えば、高校卒業後も教室からほど近い企業に就職し、社会人になった今も教室を訪れる先輩もあり、その姿は後に続く後輩の目標となっているようだ。

教室でのさまざまな取り組みと働き掛けによって、学校へ登校することが難しかった子や、室内を歩き回って落ち着きのなかった子が、少しずつ学校の課題に取り組みめるようになったり、高等学校等の進学率が年々上昇するなど、目に見えて効果が現れている。市では、来年度さらに教室がまだない地域での開設を予定するなど、事業の拡充を進めている。

毎週3カ所の教室を訪問している市の学習支援相談員は、「教室を築立ったOBたちの企画イベントは現在通う子どもたちの楽しみの一つ。高校生や社会人になった彼らにとっても教室が大切な居場所になっていることが嬉しい」と話す。

生活困窮者支援の現状と課題

子どもへの支援

子どもの貧困問題への社会的な関心が高まる中、「子どもの学習支援事業」の取り組みは広がっており、全国では平成29年度に504の自治体(56%)で実施されるまでになっている。

しかし、県内での子どもの学習支援事業は11の自治体(37%)の実施にとどまっており、取り組みの広がりが期待される。

また、この学習支援事業をはじめ、大学に進学する生活保護世帯の子どもへの一時金の支給や、日本学生支援機構等における給付型奨学金の拡充などによって、子どもの進学支援の取り組みも広がっている。さらに学習支援事業には、生活習慣や環境の向上、相互の交流等による孤立防止など「居場所」としての取り組みにより中退等を防止する「在学」支援の機能を発揮していくことも期待されている。

事例② 高齢者の就労支援 (ハローワーク灘)

高齢者は主な収入が年金である場合が多く、年金が少ない場合に慢性的な生活困窮状態に陥りやすい。そのため、家計の状況を把握した上で、働く意欲がある人には就労を継続できるよう支援に結びつけることが重要だ。

就労支援の窓口であるハローワークでは、全国的に高齢者を対象にした「生涯現役支援窓口」の設置を促進しており、県内では神戸、灘、西神、明石、姫路の5カ所のハローワークに設置されている。

「生涯現役支援窓口」のご案内
65歳以上の方を、重点的に支援します！
全国110カ所のハローワークに「生涯現役支援窓口」を設け、再就職などを目指す55歳以上の方を対象に、各種サービスを行っています。

「生涯現役支援窓口」の主な特長

- 特長1** シニア世代の方の採用に意欲的な企業の求人情報を提供します。
経験豊富なシニア世代の採用に意欲的な企業に対し、ご本人のニーズに応じた求人開拓を行います。
- 特長2** 多様な就業ニーズなどに応じた情報を提供します。
ご本人の就業ニーズなどに応じて、シルバー人材センターをはじめとする関係機関の相談窓口について情報を提供します。
- 特長3** シニア世代の方に適した、各種ガイダンスを実施します。
履歴書、職務経歴書の書き方や面接の受け方、求職活動の方法などに關して、シニア世代の方に適したガイダンスを実施します。また、技能習得のための各種講座(無料)について情報を提供します。

◆ガイダンスなどは、事前の予約が必要な場合があります。
◆「生涯現役支援窓口」の設置場所については、次ページの「生涯現役支援窓口」を開設しているハローワーク一覧を参照してください。
◆詳しくは利用時間については、最寄りのハローワークにお問い合わせください。

厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク

ハローワーク灘では、8つある一般職業相談窓口のうち2つを「生涯現役支援窓口」として設置している。

この窓口では、特に高齢者の採用に意欲的な企業を中心に求人情報の提供を行っている。さらには雇用保険の高年齢求職者給付金の手続きや、無料技能講習の紹介、また履歴書の書き方や面接の受け方のガイダンスなど、高齢の求職者に必要なさまざまなサポートが受けられるようになっている。

高齢者向けの求人の中で多い業種は「警備員」「清掃員」などで、企業側も定年後の再就労を希望している方を積極的に求めているという。

これらの業種は必ずしも高齢者の職業経験や経歴を生かせるものとは限らないが、慣れない仕事に対する不安を解消するため、雇用対策を推進する兵庫労働局から県シルバー人材センターに委託して「シニアワークプログラム地域事業」も実施されている。



我が事・丸ごとの地域づくりに向けて

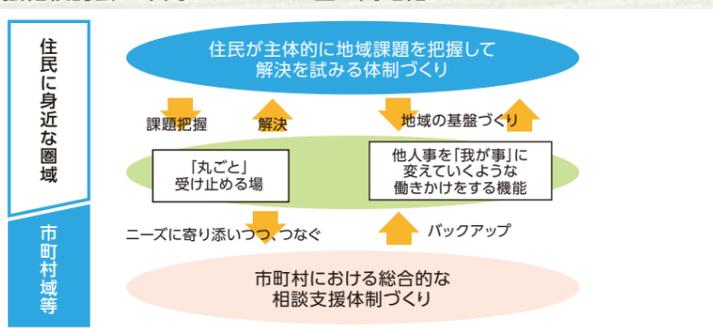
この特集で取り上げた「子ども」と「高齢者」に対する支援に限らず、生活困窮者自立支援制度においては、複合課題丸ごと「世帯丸ごと」の全世代的な相談者への対応を求められている。

また、子どもの支援等をきっかけに、その親の支援に関わることや、いわゆる「8050問題」など高齢者だけではない世帯が抱える課題への対応などにつながることもある。

さまざまなことをきっかけに課題を発見し、包括的に支援することができるようになるためにも、生活困窮者自立支援制度だけでなく、他の制度を、自治体の実情に応じて有機的に組み合わせる「総合相談・生活支援体制づくり」が必要である(図2)。さらには、福祉の枠組みだけでなく、教育機関、企業など多様な機関による連携・地域づくりが不可欠である。

これからは、制度・分野ごとの縦

図2 市町村における包括的な相談支援体制のイメージ ※地域力強化検討会の中間とりまとめの図を簡略化したもの



割りや「支え手」「受け手」という関係を超越して地域の多様な主体がつながりながら、問題解決(出口)を作り出していくことが、地域共生社会の実現への第一歩となるはずである。



このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

日本の質の高い介護にあこがれて

～言葉や文化、介護技術の違いを乗り越える～

ステファニ ディアナ
シウイナンティさん(宝塚市)

Personal History

昭和61年 インドネシア東ジャワ州ボノロゴに生まれる
平成22年 来日、特別養護老人ホーム宝塚ちどりで勤務
平成28年 介護福祉士国家試験合格



自分を愛するよう
あなたの隣人を愛せよ

私のコーナー

知識と技術を研鑽する日々

受験前は勉強のために職場を離れることもありましたが、一緒に働くスタッフのおかげで充分な勉強時間を得ることができました。何度か試験にチャレンジし、不

あり、感謝しています。受験前は勉強のために職場を離れることもありましたが、一緒に働くスタッフのおかげで充分な勉強時間を得ることができました。何度か試験にチャレンジし、不

インドネシアから日本へ

インドネシアでは、両親や家族が病院で働く姿を見て看護師になりたいと思ひ、資格を取得して病院で勤務していました。看護の仕事をするうちに介護に興味を沸き、先輩に日本での経験談を聞いて日本に強く憧れ、EPA(経済連携協定)介護福祉士のプログラムを受けることにしました。父親は少し心配していましたが、説得して平成22年6月に来日しました。

合格となり帰国していた時期もありましたが、試験に合格し正職員になってからは、夜勤もしながら食事や排泄、入浴介助など施設利用者の日常生活の全てのサポートを行っています。利用者から信頼してもらえよう、親しみのあるケアを心掛けています。日本語での会話は楽しいですが、読み書きやパソコンでの記録は難しく、まだまだ勉強中です。テレビドラマを見て知らない言葉を調べるなど、日々楽しみながら勉強しています。

また、法人内の地域交流委員会に所属して、住民への介護技術の講習会などを実施しています。先日の講習会では、認知症予防の食事メニューにインドネシア料理のテンペ(発酵食品)や緑豆のスープを紹介し、大好評でした。



「あなたがいてくれると安心するわ」と信頼されるステファニさん

日本に対する想い

インドネシアでは「Made in Indonesia」が人気です。モノやサービスの高品質が高く、日本人の仕事に対する姿勢が素晴らしいと思ひ、日本に行くことを決めました。言葉や文化、介護技術の違いなど多くの不安はありましたが、日本を愛する気持ちと、周囲の人々に支えられたことにより、乗り越えてこられたと思ひます。



納涼祭で同僚とインドネシア伝統舞踊を踊りました



「ストップ・ザ・無縁社会」
広がれ! 全県キャンペーン
<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

みんなで支え合うまちづくり

三田市では、1月27日に「三田市社会福祉大会」を開催し、住民や福祉関係者など970名が参加しました。

マルチタレントのダニエル・カール氏による記念講演では、「がんばっぺ!オラの大好きな日本～人にやさしいまちづくり～」をテーマに、日本の良さ、日本人の謙虚さを語られ、「日本には素晴らしい事がたくさんあるので、それをもっと伝えていこう」と呼び掛けられました。

また、市内障害者支援事業所・グループによる「ふくしマルシェ」や、「災害救助犬とふれあおう」、「福祉用具を体験しよう」など、福祉を身近に感じ、家族で楽しめるイベントが実施されました。



「住民参加でまちづくり」を

芦屋市では、2月3日に地域フォーラムを開催し、約160人の市民らが参加しました。

講演会では、全国社会福祉協議会 民生部長 池上実氏から、「これからの地域福祉を考える」をテーマに講演いただき、「地域共生社会の実現のために、住民が自分自身の課題と捉え、取り組んでいくことが大切である」ことを確認しました。そして、阪神・淡路大震災では多くの人が隣近所で助け合ったという教訓で締めくくられ、地域の人と人とのつながりの大切さを再認識する貴重な機会となりました。

当日のコーラスに出演した幼稚園の保護者グループ代表からは、「住んでいる人が、優しくて、思いやりがあって、困っている人にさっと声を掛け合える、そんな一人一人が芦屋ブランドを作っているのだと思います」という声を聞くこともできました。



「コミュニティカフェ」を通じて、交流・支え合いの輪が広がっています

住民同士の交流や支え合いの拠点となる「コミュニティカフェ」が、県内各地で住民主体の活動として取り組まれています。本年度、助成金を活用してコミュニティカフェの開設・拡充が図られています。

ふくふくサロン今津(西宮市)

誰でも気軽に立ち寄れるよう、分かりやすい看板を設置。中学生が拠点をイメージしてロゴを作成しました。初めての人が一人で立ち寄るなど、地域の交流カフェとして親しまれています。



飯見元気プロジェクト運営委員会(宍粟市)

空き家の納屋を会場とするため、エアコンを新たに設置。地域住民が集まりやすい交流拠点となりました。子どもや高齢者の会話と笑顔があふれる場となっています。



※上記のほかにも助成金を活用し、開設に向けた食器・調理器具、テーブル、椅子などの備品を購入する団体や、子どもや高齢者も参加しやすい環境を整えるために室内の改装・改修、トイレのバリアフリー化(手すりの設置)、冷暖房器具の設置、映写用スクリーンやコミュニケーション麻雀の購入などを行い、拠点整備・活動内容の充実を図っている団体もあります。

タイムリーな
情報をお届け

福祉トピックス

地域共生社会の実現に向けて、 県政150周年記念「県民連携事業」を活用しよう!

兵庫県は今年7月12日に成立150周年を迎えるに当たり、県民が主体的に企画・実施する創意工夫にあふれたさまざまな取り組みを支援する「県民連携事業」を実施する。

対象は、「交流の輪を拓げる」「兵庫の未来を創る」といったテーマの事業で、県内で活動する地域団体、ボランティア団体、学生グループ、NPO法人、実行委員会などに助成する。

詳細は、兵庫県ホームページをご覧ください。

【参考(事業例)】

- 少子高齢化など、直面する地域課題の解決に向けた各地でのワークショップ
- 地域資源をネットワーク化するための県内外の団体との連携イベントなど

事業実施期間

平成30年4月2日(月)
～平成31年3月31日(日)

申請受付期間

平成30年2月5日(月)
～平成31年2月5日(火)

助成額

- ・1団体あたり5万円～50万円(上限)
- ・大規模事業は、特認事業(対象事業費の2分の1以内・上限500万円)とする場合がある。

県民連携事業に関する問い合わせ先

兵庫県地域創生課 県政150周年記念事業室
TEL:078-341-7711(内線4705、4709)



みんなで作る ひょうごの福祉

民生委員制度創設100周年・児童委員制度創設70周年記念 兵庫県民生委員児童委員大会を開催



1月20日、神戸ポートピアホテルで、標記大会が開催され、県内各地の民生委員・児童委員ら約1,000人が出席した。

第一部の記念式典では、民生委員・児童委員活動の発展に寄与した功労者や、長年の活動者に対し、井戸敏三県知事、吉本知之県社協会長および亀田龍昇県民児連会長からそれぞれ感謝が伝えられ、代表受領者に感謝状が手渡された。

そして、県民児連の大橋正子主任児童委員部会副委員長が大会宣言を読み上げ、今後の民生委員・児童委員活動に向けた決意が表明されると、拍手で承認された。



代表受領者に吉本県社協会長から感謝状が手渡された

大会宣言(抜粋)

- 1 「民生委員児童委員信条」を胸に、常に地域住民の立場に立った活動を行います
- 1 さまざまな課題を抱えた人びとを支えるために、地域住民、地域団体や社会福祉協議会など関係機関等との連携・協働を一層進めます
- 1 災害時においても、民生委員・児童委員としての役割が果たせるよう、災害に備えた日頃からの地域づくりに取り組みます
- 1 次代を担う子どもたちが健やかに育つことができるよう、子育てを応援する地域づくりに取り組みます
- 1 民生委員・児童委員制度を守り、発展させていくため、住民にとってより身近な存在となるよう周知活動に取り組み、その理解を広げてまいります

第二部の記念講演会では、県民児連が100周年記念事業の一つとして平成28年度に実施した「災害に備えた民生委員・児童委員活動モニター調査」を基に、神戸学院大学の清原桂子教授から基調報告が行われた。調査では、「災害時に求められる役割を把握していたり、要援護者支援のための連携体制が整っている

地域で活動している民生委員・児童委員ほど災害時の活動に対する負担感が少ない」ことが示された。このことから、民生委員・児童委員の災害時の役割を明確にすることや、自治会や自主防災組織、行政等の関係団体・機関と平時から顔の見えるつながりをつくり役割を分担することの必要性が提言された。

その後、清原教授と、全国社会福祉協議会の池上実民生部長、豊岡市民児連の羽賀正老前会長による鼎談が行われた。池上部長は、東日本大震災で多くの民生委員・児童委員が命を落としたことから、災害時はまず自分自身と家族の命を守ることを最優先にし、平時は網目の細かいセーフティネットづくりに協力いただきたいと強調した。羽賀前会長は、日頃から地域住民や民生委員・児童委員同士で意思疎通を図ることが大事であり、行政には活動を支える仕組みづくりを求めることをメッセージとして発信した。

住民の身近な相談相手や専門機関のつなぎ役として、住民の生活を支えている民生委員・児童委員の活動は、これからも続く。



災害時に備えた民生委員・児童委員の役割やその方策について話し合われた

地域福祉ホットニュース

県内の新しい取り組みや
イチオシ情報を紹介します。



兵庫県

周囲の配慮を促す「ヘルプマーク」

兵庫県は、今年1月、内部障害や難病、妊娠初期など外見からは配慮や支援の必要性が分かりづらい人たちが、周囲から援助を得やすくなるよう「ヘルプマーク」を導入した。ヘルプマークは、昨年7月に日本工業規格(JIS)の案内用図記号に採用され、全国的に急速に普及が進んでいる。また、緊急連絡先や受けたい支援内容などを記載できる「ヘルプカード」も作成しており、支援者に必要な配慮を伝えられるようになっている。

交付を希望される方は、兵庫県障害者支援課(TEL:078-362-4379 FAX:078-362-9040)まで。



- ヘルプマークを身につけている方を見かけたら
- ・公共交通機関では、席をお譲りください
 - ・駅や商業施設等で、声を掛けるなどの配慮をお願いします
 - ・マーク等に記載された内容に従って配慮・支援をお願いします
 - ・災害時は、安全に避難するための支援をお願いします

神戸市須磨区

まちづくりの楽しさを実感する福祉学習

須磨区社協では、市立竜が台小学校で進める福祉学習として、共同募金運動の理解とともに、子ども自身が「じぶんの町を良くするしくみ」を考え、実践するプロジェクトに取り組んでいる。小学校、民生委員・児童委員などのメンバーと検討を重ねたこの取り組みは、共同募金の使い道の学習からスタート。配分先の給食会の様子を見学した子どもたちが、自分たちに何ができるかを考え、地域の高齢者らを招いて運営する「こどもふれあい喫茶」の開催に至った。今後も、未来を創る地域の担い手として、地域活動への参加などを通じた学習が展開される。



ポスター作りや会場の準備、お茶請けの調理など、地域の方の協力を受けて、子どもたちが作り上げた

福祉の就職総合フェアを開催します!

福祉の仕事に興味・関心のある方ならどなたでもご参加いただける、福祉の就職総合フェアです。

新規採用予定がある約170法人が参加。この機会をお見逃しなく!

日時 平成30年**3月10日**(土)
13:00~17:00

会場 神戸国際展示場2号館
(神戸市中央区)

申込方法 ガイドンス(11時~12時)のみ
下記まで事前申込制

入場料 無料

問い合わせ先 兵庫県福祉人材センター
TEL:078-271-3881
Facebookはコチラ→



寄付・寄贈のお礼
兵庫県婦人手工芸協会よりリチャリーバザーの収益金の一部をひょうごボランティア基金に寄付いただいた。平成14年度以降計80万円に上る。1月18日、同協会正井公華会長の神戸市文化賞受賞祝賀会を兼ねた新年互礼会の席で吉本会長から感謝状を贈呈した。ご厚志は、ボランティア活動の促進や地域福祉の向上に役立てていく。



1月27日、神戸市内で第51回兵庫ヤクルト従事者大会が開催され、兵庫ヤクルト販売株式会社から加西市社協に福祉車両1台が寄贈された。同社が毎年12月に展開する「福祉ヤクルト運動」による車両の寄贈は計21台となり、県内の市町社協で活用されている。

東日本大震災の被災者と復興を学び、交流を深める

1月16日から17日、ひょうごボランティアプラザは、日本イーライリリー(株)の協力を得て「東日本大震災被災者招へい事業を実施。阪神・淡路大震災から23年目を迎えた神戸に、宮城県名取市仮設住宅の被災者や現地で支援をしている尚綱学院しやうすけい大学の学生ら16名を招いた。

初日は、神戸市長田区を巡り、神戸まちづくり研究所の野崎隆一理事長から、被災直後から復興までの様子や苦労について聞いた。意見交換会では、「震災の記憶を言葉で伝えることと物で残すこと、その両方をしなければならぬと感じた」「人と人のつながりを大切にしていきたい」などの声が聞かれた。



長田区大正筋商店街等の復興状況見学を終えて、感想や復興に向けた思いを語る参加者

2日目は、阪神・淡路大震災および東日本大震災追悼行事へ参加し、震災の犠牲者を悼むとともに、復興への思いを深めた。

社協会長が社会福祉法人との連携などを協議

1月15日から16日にかけて、相生市のホテル万葉岬で県内社協会長連絡会議が開催された。

初日は、社会福祉法人との連携をテーマに、社会福祉法人連絡協議会代表者等連絡会の澤村安由里副代表から「ほっとかへんネット」の県域の取り組み、佐用町社協の大会長と丹波市社協の長井会長から市町域の取り組みについて報告が行われた。グループ協議では、地域におけるコーディネート役としての社協の役割発揮の重要性が確認された。

2日目は、社協の人材確保と育成について、(株)エイデル研究所の小林雄二郎京都支社長による講義が行われ、社協の基本理念や進むべき方向性を明確にし、そこに合う人材を確保・育成していくことが重要であると説明があった。

市町域での地域福祉をより一層

推進するため、新しい局面にも柔軟に対応し、会長同士のつながりを強めながら力を合わせていくことを確認する機会となった。



ブロックごとに分かれたグループで活発な協議が行われた

協働による災害ボランティアセンター運営を考える

2月1日、ひょうごボランティアプラザは、「災害ボランティアコーディネーター養成研修【応用編】・災害ボランティアセンター・マネジメント研修」を開催。県内市区町社協の事務局長や職員ら43名が参加した。

研修では、いしがた災害ボランティアネットワークの李仁鉄理事長から「社協に求められる災害時の



災害時に必要な社協の取り組みについて議論する参加者

支援の全体像」についての講演があった後、西宮市社協の上野武利共生のまちづくり課長、広島市安佐南区社協の三村誠司事務局長から災害の経験を踏まえた取り組みの事例報告があり、災害ボランティアセンターのマネジメントの在り方を考えるグループ討議が行われた。大規模災害発生時には、社協本来の業務を継続しつつ、多様な主体と協働した災害ボランティアセンター運営が求められる、社協全体のマネジメントの在り方を考える場となった。

赤い羽根「テーマ型募金」

地域の困り事を解決するための募金にご協力ください

1月から3月の間、特定の配分テーマを定めた「テーマ型募金」が全国的に実施され、県内においても、下記の5地区の共同募金委員会で寄付を受け付けています。

温かいご支援・ご協力をお願い致します。

【テーマ型募金の内容と実施地区】

- 未来をつなぐ 子ども支援プロジェクト(東灘区)
- 子どもの居場所応援団プロジェクト(兵庫区)
- 先駆的な福祉活動の支援をしたい!(中央区)
- 子ども達が健やかに育つための居場所づくりをしたい!(中央区)
- 障害児・者の居場所、ひきこもり児・者等の居場所支援プロジェクト(垂水区)
- わがまちが被災した際に迅速な対応ができるよう災害用資機材を配備したい!(養父市)



例えば、兵庫区では親の仕事などで孤立した状況にある子どもたちを支援する「子ども食堂」を運営する団体の活動を応援するために使われます。

そのほか、特にテーマを定めず、イベントや募金百貨店プロジェクトなどを通じて募金活動を実施する地区もあります。また、兵庫県の全ての市区町では、本年度の募金に対するお礼や福祉学習などを通じ共同募金をより深く知っていただく広報強化期間として、3月まで共同募金運動を展開します。詳しくは、兵庫県共同募金会のホームページをご覧ください。赤い羽根ひょうご [検索](#)

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

公益財団法人木口福祉財団 平成30年度地域福祉振興助成

市民参加型福祉の促進と地域振興を図り、やさしく明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的に、障害者を支援する福祉活動への助成を行います。

対象 障害者を支援する福祉活動、ボランティア活動に取り組む団体で平成29年度に同財団の助成を受けていない団体

助成額 1件上限100万円 ※助成対象費用の80%以内(総額4,500万円の予定)

締切り 平成30年3月13日(火)必着

☎ ④ 公益財団法人木口福祉財団
TEL 0797-21-5150

URL <http://kiguchi.or.jp/>

社会福祉法人NHK厚生文化事業団 第30回「わかば基金」

次の3つの方法でボランティアグループやNPOの活動を応援します。①支援金部門②リサイクルパソコン部門③災害復興支援部門

対象 地域に根ざした福祉活動を行っているグループ、任意のボランティアグループまたはNPO法人

助成額 ①1グループ上限100万円(10グループほどを予定)

②1グループ上限3台(総数50台ほどを予定)

③1グループ上限100万円(5グループほどを予定)

締切り 平成30年3月30日(金)必着

☎ ④ NHK厚生文化事業団
TEL 03-3476-5955

URL <https://www.npwo.or.jp/>

日本労働組合総連合会 連合・愛のキャンパ

NGO・NPO団体などの事業・プログラムへの支援、および自然災害などによる被災者に対する救援・支援を目的に助成を行います。

対象 【中央助成】連合の構成組織の推薦があり、国内外で救援・支援活動に取り組んでいるNGO・NPO団体

【地域助成】地方連合会の推薦があり、連合組合員およびその家族、あるいは退職者が、積極的に運営に参加している団体、または地方連合会が

日常的な活動で連携している団体
平成30年3月31日(土)
☎ ④ 【中央助成】日本労働組合総連合会
連帯活動局
TEL 03-5295-0513
【地域助成】申請団体・組織が所在・活動する地方連合会まで
URL <https://www.jtuc-rengo.or.jp/>

大阪帝塚山ロータリークラブ 2018年度社会奉仕基金助成金

社会奉仕活動プロジェクトを応援します。

対象 大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山、滋賀県内で社会奉仕活動をしており、本助成を過去4年以内(平成26年6月以降)に受けたことのない団体

助成額 1団体上限40万円(合計3団体)

締切り 平成30年4月30日(月・祝)

☎ ④ 大阪帝塚山ロータリークラブ ※問い合わせはメールのみで受け付け
(osaka.tezukayama.r.c@gmail.com)

URL <http://osaka-tezukayama-r.c.cocolog-nifty.com/>

募 集

公益財団法人社会貢献支援財団 社会貢献者表彰推薦募集

人々や社会のために貢献された方を①社会貢献の功績②人命救助の功績③その他の功績の3つに分けて表彰します。

応募方法 下記ホームページの送信フォームまたは郵送で推薦書を送付
※候補者には、年齢・職業・性別・信条などの制限はありません

締切り 平成30年5月1日(火)必着

☎ ④ 公益財団法人社会貢献支援財団
TEL 03-3502-0910

URL <http://www.fesco.or.jp/>

研修・イベント

福祉用具フェスティバル2018 ～移動支援機器～

日程 平成30年3月9日(金)12:00~16:00、
3月10日(土)10:00~15:30

会場 総合リハビリテーションセンター
福祉のまちづくり研究所

参加費 無料
☎ 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
福祉のまちづくり研究所
TEL 078-927-2727

行事予定

- 3月 1日** ひょうごボランティア基金助成事業報告会・ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議
◆クリスタルホール
- 1日・2日** 介護支援専門員施設職員版研修(Aコース)
◆神戸ファッションマート
- 2日** 地域福祉政策研究会(第4回)
◆県福祉センター
- 7日** 「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会幹事会
◆県福祉センター
- 8日** 第3回若年性認知症支援担当者研修
◆県福祉センター
- 9日** 地域とともに進める生活支援全県フォーラム
◆県立のじぎく会館
- 10日** 第2回福祉の就職総合フェア in HYOGO
◆神戸国際展示場2号館
- 12日** 災害福祉支援フォーラム
◆クリスタルホール
- 13日** 第6回ひょうご中間支援団体ネットワーク意見交換会
◆ボランティアプラザセミナー室
- 13日・14日** 介護支援専門員施設職員版研修(Bコース)
◆県立のじぎく会館
- 15日** 県社協 第252回理事会
◆県福祉センター
- 16日** 第2回ひょうごボランティアプラザ運営協議会
◆ボランティアプラザセミナー室
- 19日** 福祉のオシゴトはじめてガイダンス
◆ハローワーク神戸
- 28日** 県社協 第193回評議員会
◆県福祉センター
- 4月 4日~** 介護支援専門員更新研修B・再研修
◆県社会福祉研修所ほか
- 16日~** 介護支援専門員 専門研修課程 I・研修研修A(前期)
◆県社会福祉研修所ほか

ホームページは、**どんどん進化する。**

PC・スマートフォン対応のWEBサイトをご提案。
フレキシブルな対応で、お客様の要望を叶えます。



株式会社メックコミュニケーションズ TEL. 078-230-7525
<http://www.mec-com.co.jp>

●4月生募集●
3/28(水)申込締切 ※先着順

介護福祉士 実務者研修

1~3月に受講検討、次年度介護福祉士受験者
合格率85.5%
※平成28年度受講生

受講料 89,990円
(税別・教材費込)
※ホームヘルパー2級/初任者研修資格保有の方の金額です。

平成30年は介護報酬改定年となり、平成31年には「ホームヘルパー2級」「初任者研修」修了者のサービス提供責任者は完全廃止となります。

実務者研修 開催教室
元町・西宮・明石・尼崎・加古川・姫路・川西・淡路島

三幸福祉カレッジ 神戸校 ☎0120-515-350
(平日9:00~19:30/携帯可)
神戸市中央区明石町44 神戸御幸ビル4F
お申込、資料請求、教室場所ははこちら <https://www.sanko-fukushi.com/branch/kob/>